

数学 2 (問題)

平成 6 年 12 月 20 日
数学 2 1

1. 次の各問の に入る答のみを、所定の解答用紙に記入せよ。 (35点)

(1) あるサイコロの 1 の目が出る確率が $1/6$ といえるか、有意水準 1% で検定する。このサイコロを 4500 回投げたとき、 回以上 1 の目が出ると、1 の目が出る確率は $1/6$ といえない。

(2) 母集団の確率密度関数が、指数分布

$$f(x; \mu) = \begin{cases} (1/\mu) e^{-x/\mu} & (x > 0) \\ 0 & (x \leq 0) \end{cases}$$

に従うとき、大きさ n の標本変量平均 \bar{X} について統計量 $Y = C\bar{X}^2$ (C は定数) とする。

ここで、 $C = \text{$ のとき、 Y は μ^2 の不偏推定量である。

(3) ある池から 20 匹の魚をとらえて、これに目印をつけて池に放った。しばらくたって、魚を 1 匹ずつとらえてはもとに戻し、印のついた魚が得られるまで続けた。これに要した回数 (最後の回は計算に入れない) を X とする。

この試行を 10 回繰り返して標本 x_1, x_2, \dots, x_{10} を得たとする。

このとき、池の中の魚の総数 N の最尤推定値は である。

(4) $(0, 1)$ 上の一様分布に従う母集団から大きさ n の標本を取り出し、標本中の最大値を $X_{(n)}$ とする。確率変数 $Y_n = (n+1)(X_{(n)} - n/(n+1))$ の分布関数を $G_n(y)$ としたとき、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} G_n(y) = \begin{cases} \text{} & (y < 1) \\ 1 & (y \geq 1) \end{cases} \text{ である。}$$

(5) $(0, \theta)$ 上の一様分布に従う母集団から大きさ n の標本を取り出し、標本中の最大値を $X_{(n)}$ とする。

($\theta > 0$ とする。) この時、

① $Z = X_{(n)} / \theta$ の確率密度関数は である。

② θ に対する信頼係数 α の最短の信頼区間は である。

2. 次の問に答えよ。

(1) 確率密度関数が

$$f(x) = \begin{cases} C x^{n/2-1} e^{-x/2} & (x \geq 0) \\ 0 & (x < 0) \end{cases}$$

であるとき定数 C の値をガンマ関数 $\Gamma(s) = \int_0^{\infty} u^{s-1} e^{-u} du$ を用いて表わせ。

(2) 正規母集団 $N(\mu, \sigma^2)$ からの標本 X_1, X_2, \dots, X_n の標本分散を

$$S^2 = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2, \text{ ただし } \bar{X} = \frac{X_1 + X_2 + \dots + X_n}{n} \text{ とする。}$$

$T = kS$ が母標準偏差 σ の不偏推定量であるとき、 k の値をガンマ関数を用いて表わせ。

(20点)

3. ある県の中学3年生の数学の学力試験の成績は、平均50、分散100であった。いま、無作為に1000人を選び成績を調べたところ次の表のとおりであった。

成績	30未満	30以上 40未満	40以上 50未満	50以上 60未満	60以上 70未満	70以上
人数	25	156	296	366	129	28

この結果から、この試験の成績は正規分布に従っているといえるか。有意水準1%および5%で検定せよ。

(20点)

必要であれば次の数値を用いよ。

標準正規分布

ϵ	0.159	0.100	0.050	0.025	0.023	0.010	0.005
$u(\epsilon)$	1.000	1.282	1.645	1.960	2.000	2.326	2.576

χ^2 分布 (自由度 ϕ , 分布値 ϵ)

$\phi \backslash \epsilon$	0.995	0.990	0.975	0.950	0.050	0.025	0.010	0.005
3	0.072	0.115	0.216	0.352	7.81	9.35	11.34	12.84
4	0.207	0.297	0.484	0.711	9.49	11.14	13.28	14.86
5	0.412	0.554	0.831	1.145	11.07	12.83	15.09	16.75
6	0.676	0.872	1.237	1.635	12.59	14.45	16.81	18.55

4. 指数分布 (確率密度関数 $f(x) = e^{-x}$ ($x > 0$)) に従う母集団から抽出した n 個の標本 X_i ($i = 1, 2, \dots, n$) を大きさの順に並べなおして $X_{(1)} < X_{(2)} < \dots < X_{(n)}$ とする。ここで、

$$\begin{cases} Y_1 = X_{(1)} \\ Y_2 = X_{(2)} - X_{(1)} \\ Y_3 = X_{(3)} - X_{(2)} \\ \dots \\ Y_n = X_{(n)} - X_{(n-1)} \end{cases}$$

としたとき、次の間に答えよ。

- (1) Y_1, Y_2, \dots, Y_n の同時分布の確率密度関数 $g(y_1, y_2, \dots, y_n)$ を求めよ。
- (2) $E(Y_i)$ ($i = 1, 2, \dots, n$) を求めよ。
- (3) $E(X_{(i)})$ ($i = 1, 2, \dots, n$) を求めよ。

(25点)

数学 2 解答

1.

(1) 求める回数を x とおく。

$$H_0 : p = \frac{1}{6} \quad H_1 : p \neq \frac{1}{6}$$

$$\hat{p} = \frac{x}{4500}$$

$$|u| = \frac{|\hat{p} - p_0|}{\sqrt{\frac{p_0(1-p_0)}{n}}} = \frac{\left| \frac{x}{4500} - \frac{1}{6} \right|}{\sqrt{\frac{1}{4500} \cdot \frac{1}{6} \cdot \frac{5}{6}}} > 2.576 = u(0.005)$$

これを解くと

$$x > \left(2.576 \times \frac{1}{180} + \frac{1}{6} \right) \times 4500 = 814.4$$

よって求める回数は 815 回以上。

(2) X_1, X_2, \dots, X_n を母集団からの標本変量とする。

$$E(X_i) = \mu, \quad E(X_i^2) = 2\mu^2 \quad (1 \leq i \leq n)$$

$$\text{また、} i \neq j \text{ のとき } E(X_i X_j) = E(X_i) E(X_j) = \mu^2$$

($\because X_i, X_j$ は独立)

$$\begin{aligned} E(\bar{X}^2) &= E\left[\left(\frac{1}{n} \sum_{i=1}^n X_i\right)^2\right] \\ &= \frac{1}{n^2} \sum_{i=1}^n E(X_i^2) + \frac{1}{n^2} \sum_{i \neq j} E(X_i X_j) \\ &= \frac{1}{n^2} n \cdot 2\mu^2 + \frac{1}{n^2} n(n-1)\mu^2 \\ &= \frac{n+1}{n} \mu^2 \end{aligned}$$

$$E(Y) = C E(\bar{X}^2)$$

$$\text{従って } C = \frac{n}{n+1}$$

(3) Xが従う分布の確率密度関数は

$$f(x; N) = \left(1 - \frac{20}{N}\right)^x \frac{20}{N}$$

(x_1, x_2, \dots, x_{10})の同時密度関数は

$$\prod_{i=1}^{10} f(x_i; N) = \left(1 - \frac{20}{N}\right)^{\sum_{i=1}^{10} x_i} \left(\frac{20}{N}\right)^{10}$$

であるが、これをNの尤度関数 $l(N)$ とおいて

$$\frac{\partial}{\partial N} \log l(N) = \sum_{i=1}^{10} x_i \cdot \frac{\frac{20}{N^2}}{1 - \frac{20}{N}} - \frac{10}{N} = 0$$

これを解けば、

$$N = \boxed{20 + 2 \sum_{i=1}^{10} x_i}$$

(4) $X_{(n)}$ の分布関数は

$$F(X_{(n)}) = X_{(n)}^n$$

$$G_n(y) = P\{Y_n < y\}$$

$$= P\{(n+1)(X_{(n)} - n/(n+1)) < y\}$$

$$= P\left\{X_{(n)} < \frac{y+n}{n+1}\right\}$$

$$(y < 1 \text{ のとき}) \quad = \left(\frac{y+n}{n+1}\right)^n \quad (y \geq 1 \text{ のとき}) \quad = 1$$

$$= \left(1 + \frac{y-1}{n+1}\right)^n$$

$$(n \rightarrow \infty \text{ のとき}) \rightarrow \boxed{e^{y-1}}$$

$$(5) \textcircled{1} \quad f_L(X_{(n)}) = n \left(\int_{-\infty}^{X_{(n)}} f(x) dx \right)^{n-1} f(X_{(n)})$$

$$= n \left(\frac{X_{(n)}}{\theta} \right)^{n-1} \frac{1}{\theta}$$

$\therefore Z$ の確率密度関数は $\boxed{nz^{n-1}}$

② $\int_a^b n z^{n-1} dz = \alpha$ ($0 \leq a < b \leq 1$) から a と b を定めれば、

$\left(\frac{X_{(n)}}{b}, \frac{X_{(n)}}{a} \right)$ は信頼係数 α の信頼区間である。

いま、 $b = a + h$ とおくと

$$\int_a^{a+h} n z^{n-1} dz = (a+h)^n - a^n = \alpha$$

a で微分すると

$$n(a+h)^{n-1} \left(1 + \frac{dh}{da} \right) - n a^{n-1} = 0$$

$$\therefore \left(1 + \frac{dh}{da} \right) = \left(\frac{a}{a+h} \right)^{n-1}$$

信頼区間の長さを $l = \frac{X_{(n)}}{a} - \frac{X_{(n)}}{a+h}$ とおくと、

$$\frac{dl}{da} = -\frac{X_{(n)}}{a^2} + \frac{X_{(n)}}{(a+h)^2} \left(1 + \frac{dh}{da} \right)$$

$$= -\frac{X_{(n)}}{a^2} + \frac{X_{(n)}}{(a+h)^2} \left(\frac{a}{a+h} \right)^{n-1}$$

$$= \frac{X_{(n)}}{a^2} \left\{ \left(\frac{a}{a+h} \right)^{n+1} - 1 \right\} < 0$$

従って l は $a+h=1$ のとき最小になる。

$$1 - a^n = \alpha$$

$$\therefore a = (1 - \alpha)^{1/n}$$

従って求める信頼区間は $\left(X_{(n)}, \frac{X_{(n)}}{(1 - \alpha)^{1/n}} \right)$

2. (1) $\int_{-\infty}^{\infty} f(x) dx = \int_0^{\infty} C x^{n/2-1} e^{-x/2} dx$

ここで $\frac{x}{2} = u$ とおいて置換積分を行うと、

$$= C 2^{n/2} \int_0^{\infty} u^{n/2-1} e^{-u} du = C 2^{n/2} \Gamma\left(\frac{n}{2}\right) = 1$$

$$\therefore C = \frac{1}{2^{n/2} \Gamma\left(\frac{n}{2}\right)}$$

(2) X_1, X_2, \dots, X_n は独立でどれも $N(\mu, \sigma^2)$ に従うから、

$$Y = \frac{n S^2}{\sigma^2} = \frac{1}{\sigma^2} \sum_{i=1}^n (X_i - \bar{X})^2$$

は自由度 $n-1$ の χ^2 分布に従う。よって

$$\begin{aligned} E(\sqrt{Y}) &= \int_0^\infty \sqrt{y} \frac{1}{2^{(n-1)/2} \Gamma\left(\frac{n-1}{2}\right)} y^{(n-1)/2-1} e^{-y/2} dy \\ &= \frac{1}{\sqrt{2} \Gamma\left(\frac{n-1}{2}\right)} \int_0^\infty \left(\frac{x}{2}\right)^{n/2-1} e^{-x/2} dx \end{aligned}$$

ここで $t = \frac{y}{2}$ とおいて

$$\begin{aligned} &= \frac{\sqrt{2}}{\Gamma\left(\frac{n-1}{2}\right)} \int_0^\infty t^{n/2-1} e^{-t} dt \\ &= \frac{\sqrt{2}}{\Gamma\left(\frac{n-1}{2}\right)} \Gamma\left(\frac{n}{2}\right) \end{aligned}$$

$$E(T) = E(kS) = k E(S) = k E\left(\frac{\sigma}{\sqrt{n}} \sqrt{Y}\right) = k \frac{\sigma}{\sqrt{n}} E(\sqrt{Y})$$

$$= k \frac{\sigma}{\sqrt{n}} \frac{\sqrt{2}}{\Gamma\left(\frac{n-1}{2}\right)} \Gamma\left(\frac{n}{2}\right) = \sigma$$

$$\therefore k = \frac{\Gamma\left(\frac{n-1}{2}\right)}{\Gamma\left(\frac{n}{2}\right) \sqrt{\frac{2}{n}}}$$

3. 仮説「数学の学力試験の成績は正規分布 $N(50, 100)$ に従う。」を検定する。正規分布表より理論度数を計算すると、つぎのとおりとなる。

成績	30未満	30以上 40未満	40以上 50未満	50以上 60未満	60以上 70未満	70以上
理論度数	23	136	341	341	136	23

適合度検定により $\chi^2 = \sum \frac{(\text{実現値} - \text{理論度数})^2}{\text{理論度数}}$ は自由度5の χ^2 分布に従う

と考えてよい。

$$\chi^2 = \frac{(25-23)^2}{23} + \frac{(156-136)^2}{136} + \frac{(296-341)^2}{341} + \frac{(366-341)^2}{341} + \frac{(129-136)^2}{136} + \frac{(25-23)^2}{23} = 12.33$$

$\chi_{.01}^2(5) = 15.09$ であるから、有意水準1%では仮説は正しいといえるが、

$\chi_{.05}^2(5) = 11.07$ であるから、有意水準5%では仮説は正しいとは言えない。

4. (1) $X_{(1)} < X_{(2)} < \dots < X_{(n)}$ の同時分布の確率密度関数は

$$f(x_{(1)}, x_{(2)}, \dots, x_{(n)}) = \begin{cases} n! \exp(-x_{(1)} - x_{(2)} - \dots - x_{(n)}) & (0 < x_{(1)} < x_{(2)} < \dots < x_{(n)}) \\ 0 & (\text{その他}) \end{cases}$$

ここで $Y_1 = X_{(1)}$
 $Y_2 = X_{(2)} - X_{(1)}$
 $Y_3 = X_{(3)} - X_{(2)}$
 \dots
 $Y_n = X_{(n)} - X_{(n-1)}$ と変換すると、

$$X_{(1)} < X_{(2)} < \dots < X_{(n)} \Leftrightarrow Y_1 > 0, Y_2 > 0, \dots, Y_n > 0$$

また $X_{(1)} = Y_1$
 $X_{(2)} = Y_1 + Y_2$
 $X_{(3)} = Y_1 + Y_2 + Y_3$
 \dots
 $X_{(n)} = Y_1 + Y_2 + Y_3 + \dots + Y_n$

従って $x_{(1)} + x_{(2)} + \dots + x_{(n)} = n y_1 + (n-1) y_2 + \dots + y_n$

また

$$\frac{\partial (X_{(1)}, X_{(2)}, \dots, X_{(n)})}{\partial (Y_1, Y_2, \dots, Y_n)} = \begin{vmatrix} \frac{\partial X_{(1)}}{\partial Y_1} & \frac{\partial X_{(1)}}{\partial Y_2} & \dots & \dots & \frac{\partial X_{(1)}}{\partial Y_n} \\ \frac{\partial X_{(2)}}{\partial Y_1} & \dots & \dots & \dots & \dots \\ \dots & \dots & \dots & \dots & \dots \\ \frac{\partial X_{(n)}}{\partial Y_1} & \dots & \dots & \dots & \frac{\partial X_{(n)}}{\partial Y_n} \end{vmatrix}$$

$$= \begin{vmatrix} 1 & 0 & 0 & \dots & 0 \\ 1 & 1 & 0 & \dots & 0 \\ 1 & 1 & 1 & \dots & 0 \\ \dots & \dots & \dots & \dots & \dots \\ 1 & 1 & 1 & \dots & 1 \end{vmatrix} = 1$$

従って、変換のヤコビアン = 1。

以上により $Y_1, Y_2, Y_3, \dots, Y_n$ の同時分布の確率密度関数は

$$g(y_1, y_2, \dots, y_n)$$

$$= \begin{cases} n! \exp(-ny_1 + (n-1)y_2 + \dots + y_n) & (y_1 > 0, y_2 > 0, \dots, y_n > 0) \\ 0 & (\text{それ以外}) \end{cases}$$

$$(2) g(y_1, y_2, \dots, y_n)$$

$$= \begin{cases} n \exp(-ny_1) \{(n-1) \exp(-(n-1)y_2)\} \dots \exp(-y_n) & (y_1 > 0, y_2 > 0, \dots, y_n > 0) \\ 0 & (\text{それ以外}) \end{cases}$$

であるから Y_1, Y_2, \dots, Y_n は互いに独立で、 Y_i の確率密度関数は

$$g_i(y_i) = \begin{cases} (n-i+1) \exp(-(n-i+1)y_i) & (y_i > 0) \\ 0 & (y_i \leq 0) \end{cases}$$

これは平均 $\frac{1}{n-i+1}$ の指数分布の確率密度関数だから

$$E(Y_i) = \frac{1}{n-i+1} \quad (i=1, 2, \dots, n)$$

$$(3) E(X_{(i)}) = E(Y_1 + Y_2 + \dots + Y_i)$$

$$= \sum_{k=1}^i E(Y_k) = \sum_{k=1}^i \frac{1}{n-k+1}$$